

英語科学習指導案

日 時 令和4年11月8日(火) 公開授業 I

学 級 宮古市立田老第一中学校

1年A組(男子8名 女子11名 計19名)

会 場 1年A組教室

指導者 澤口 麻里

1 単元名 PROGRAM 7 Research on Australia (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1)

2 単元について

(1) 教材観 教材の意義, 価値

題材は、オーストラリアの世界遺産、動物、夏の過ごし方を取り上げている。

言語材料としては、「～がある(いる)」と人やものがある場所に存在することを表す **There+be** 動詞+名詞(句)+場所を表す副詞(句)の構文、疑問詞 **How** の疑問文を扱う。

本単元では、ペアで様々な国の世界遺産、食べ物、生活等について調べ、英語で紹介することを表現活動のゴールに据える。生徒たちはオーストラリアについて、コアラ、カンガルー、羊は知っているものの、それ以外や生活習慣については意外と知らない。南半球に位置し、北半球に位置する日本とは季節が反対だったり、世界でも珍しい固有種が住んでいたり、サマータイム(オーストラリアのサマータイム開始は10月上旬、終わりは4月上旬)があったり、世界遺産や文化等の違いも含めてオーストラリアへの興味を高めた。また、オーストラリアについての学びをきっかけに、ゴールの表現活動に向けて、さらに「知りたい」「伝えたい」と思って、積極的に様々な国の言語や文化、生活習慣等に関する知識を増やしていけるようにしていく。

(2) 生徒観 生徒の姿, 変容を期待する部分

多くの生徒が言語活動に積極的に取り組んでいる。特にペアワークやグループワークでは、分からないところを尋ねたり、教えたりしながら英語でのやり取りができる生徒が多い。教科書の音読や暗唱、発表など指示された課題はほぼすべての生徒ができるまで努力を積み重ねることができる。また、他国の文化や生活習慣、他言語等に対する興味・関心も高い。しかしその一方で、相手の反応を見ながら多様な手段(別の語での言い換え、説明、例文、ジェスチャー、視覚情報等)で伝えるということには課題が見られる。また、1分間トークやスピーチ後の質疑応答等、即興力を伴うような場面では、自分自身のことであっても戸惑ったり、間違いを恐れたりして何も言えなくなる生徒が多い。

そこで本単元においても、英語使用場面では必ず、聞き手、話し手、読み手、書き手といった他者がいることを意識させながら活動させていく。また、ただ表現活動をして終わりではなく、それに対して感想を述べたり、質問をしたりする機会を設けることで即興力を高めていく。

(3) 指導観 手立て, 単元としての実生活とのつながり → 本校研究との関連

主題：教科の本質を追究し、主体的に学ぶ生徒の育成

～実生活・実社会とのつながりを実感させる授業を通して～

本校では、生徒たちがこれからの変化の激しい予測困難な社会を、他者と協働しながら力強く生きていけるように、各教科での学びを他教科や実生活につなぐことを意識して授業改善に取り組んでいる。生徒たちが各教科での学びが自分の生活につながっている、よりよく生きることに繋がっていると実感し、最終的には自分の生活に活かすことができるように指導していきたい。

英語科においては、生徒たちは英語を学ぶことが大切だということは理解し、(2) 生徒観でも述べたように、言語活動にも積極的に取り組んでいる。しかし実生活や実社会において英語の使用場面はほとんどな

く、いまひとつ必要感を感じることができないのが現状である。それは授業で学んだことが実生活や実社会と結びつかないことが大きな原因になっている。そんな生徒たちが必要感をもって主体的に学ぶためには、中学校段階においては、自分の言いたいこと、伝えたいことを相手に伝えることができるコミュニケーションを図る資質・能力を身に付けることだと考える。授業での学びが自分の身の回りの世界をより楽しく充実することにつながれば、生徒たちにとって英語の時間を通して学んだことが価値あるものになる。授業で実生活や実社会とのつながりを実感させながら、以下の資質・能力（○）を育てる指導を継続していき、主体的に学ぶ生徒を育成していく。

○実際のコミュニケーション場面において、習得した知識・技能を運用する力

授業では文法事項の習得だけで終わらせず、対話、発表など他者とのコミュニケーション場面を意図的に設定する。習得から活用まで弾力的でスパイラルな指導（ある程度習得した知識・技能を土台に、多少不十分であっても、繰り返し活用しながら習得を目指す指導）を意識し、その中で生徒自身が自分で判断し、表現を選択する練習を行っていく。

本単元で扱う **There + be** 動詞 + 名詞(句) + 場所を表す副詞(句)の構文は初めて話題にするものに使う。しかし生徒は「～がある（いる）」という意味だけに注目し、本来使用できない場面でも使う傾向にある。教師が様々な使用場面を提示することで、構文の意味と使用場面を合わせて理解するように促していく。

また、疑問詞 **How** は小学校ですでに **How are you? / How many ~? / How's the weather? / How do you spell ~? / How much ~?** といった表現を学んでいることから分かるように、使用頻度が非常に高い表現である。これまで学習してきた疑問詞 **When, Where, Who, Whose, What, Why, Which** と同様に、繰り返し使用させることで定着を図っていく。

○国際社会の中で他者と協調・協働しながら、互いに理解を深め、尊重し合う姿勢

ペアやグループなど学習形態を工夫し、他者との協働場면을積極的に設けていく。実際に自分の言葉でのやり取りを重ねながら、協働して課題を解決したり、より質の高い活動を行ったりできる姿を目指したい。また、本物に触れる機会を大切に、言語材料だけでなく、言葉の背景にある文化にも関心をもたせるような指導を行うことで相互理解、異文化理解を促し、他者に対して寛容な態度をもって関わることのできる姿を目指す。

本単元ゴールの「様々な国の世界遺産や食べ物、生活等について調べ、英語で紹介する」表現活動に向けて、ペアでの活動を軸とし、実生活同様に、他者と協働して何とか課題を解決しようとする経験を生徒たちに積ませたい。また、紹介する活動を通して、日本だけでなく、海外の国についても目を向けるきっかけとしたい。

○主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度

主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるために、以下の2点に留意して指導する。

- ・生徒の何とか伝えたいという思いを大切に、既習事項を最大限活用させる。また、未習事項であっても、相手に伝えようとする姿勢（別の語での言い換え、説明、例文、ジェスチャー、視覚情報等）を評価し、価値づけることで学ぶ意欲を高める。
- ・英語使用場面では必ず聞き手、話し手、読み手、書き手といった他者がいることを意識させながら活動させる。また、他者からの学びを大切にさせる。

毎単元末には必ず表現活動を設けている。そしてその表現活動にはフィードバックを行い、期間内であれば何度でも挑戦できるようにしている。本単元でも、未習事項や難しい表現をいかに聞き手に分かりやすく伝えるか、即興の質問に「**I don't know.**」と答えるのではなく、「**What does it mean?**」と聞き返したり、黒板に絵を描いて説明したりするなど、英語で何とかお互いに伝え合おうとする姿勢を大切にしていきたい。

3 単元の目標及び評価規準

- ・ **There+be** 動詞+名詞(句)+場所を表す副詞(句)の構文を理解することができる。
- ・ 疑問詞 **How** を使った疑問文の構造を理解することができる。 【知識及び技能】
- ・ 既習表現を活用して、自分たちが選んだ国の世界遺産や食べ物、生活等について相手に伝わるように紹介することができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- ・ ペアで協働しながら、より質の高い発表をしようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|------|--|---|--|
| 評価規準 | <p><知識></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ There+be 動詞+名詞(句)+場所を表す副詞(句)の文の構造を理解している。 ・ 疑問詞 How を含む疑問文の構造を理解している。 <p><技能></p> <p>自分たちが選んだ国の世界遺産や食べ物、生活等について、本単元の言語材料を用いて紹介する技能を身に付けている。</p> | <p>自分たちで選んだ国の世界遺産や食べ物、生活等について相手にその魅力が伝わるように、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて紹介している。</p> | <p>【話し手】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちが選んだ国の世界遺産や食べ物、生活等について相手にその魅力が伝わるように、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて紹介しようとしている。 ・ 聞き手からの質問や感想に即興で答えようとしている。 <p>【聞き手】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表内容に関して、即興で質問や感想を述べようとしている。 |

4 単元の指導計画

○：指導に生かすとともに記録して総括に用いる評価 ●：主に指導に生かす評価

| 時間 | 本時課題，ねらい■，言語活動等（丸数字），研究に関わる柱□ | 知 | 思 | 態 | 備考 |
|---------|---|---|---|---|---|
| 1 | <p>課題：オーストラリアってどんな国？</p> <p>■単元のゴールの表現活動を確認する。</p> <p>■単元で学ぶ題材や身に付ける文構造を知る。</p> <p style="text-align: right;">ゴールの共有</p> | ● | | | ・ 後日行うパフォーマンステストに向けて、教科書を先行して、ダイアログ（視覚情報を伴った音声での導入をする）を帯学習（10分～15分程度）で毎時間扱っていく。 |
| 2 | <p>課題：おススメの観光地情報を手に入れよう。</p> <p>■There+be 動詞+名詞(句)+場所を表す副詞(句)の文の構造を理解する。</p> <p>①There+be 動詞+名詞(句)+場所を表す副詞(句)の文の使用場面について理解する。</p> <p>②There+be 動詞+名詞(句)+場所を表す副詞(句)の平叙文，疑問文の形と意味を理解し，使えるように練習する。</p> | ● | | | |
| 3 本時 | <p>課題：なぜ人は○○に魅了されるのか。</p> <p>■There+be 動詞+名詞(句)+場所を表す副詞(句)の文を含む文章の内容を理解する。</p> <p>①教科書本文の内容を読み取る。</p> <p>②教科書本文を通して，There+be 動詞+名詞(句)+場所を表す副詞(句)の文の使い方を理解する。</p> <p>③教科書の対話文をもとに，ペアで対話文を作成する。</p> <p style="text-align: right;">問いの工夫</p> | | ● | | |
| 4 | <p>課題：交通手段を説明しよう。</p> <p>■疑問詞 How を使った疑問文の構造を理解する。</p> <p>①疑問詞 How を使った疑問文の形と意味を理解し，使えるように練習する。</p> | ● | | | ・ 第7時で行う生徒による言語材料の説明では、良い例を全体に示す。 |
| 5 | <p>課題：オーストラリアの夏の過ごし方について読み取った内容を交流しよう。</p> <p>■疑問詞 How を使った疑問文を含む文章の内容を理解する。</p> <p>①教科書本文の内容を読み取る。</p> <p>②教科書本文を通して，疑問詞 How の使い方を理解する。</p> | | ● | | ・ 第9時で行う自分たちが選んだ国の紹介は対面で行 |
| 6 | <p>課題：おススメの観光地情報，交通手段を確認しよう。</p> <p>■単元の言語材料を復習する。</p> <p>①「東日本，西日本どちらに行きたいか」のディベートを通して，おススメの観光場所，交通手段を尋ねたり答えたりする。</p> | ● | ● | | |

| | | | | | | |
|---|--|---------|---|---|---|--|
| 7 | 課題：先生になって英語のしくみを分かりやすく説明しよう。 ■単元の言語材料を復習する。 ①単元の言語材料をノートにまとめる。 ②教師役になって生徒役（生徒，教師）に分かりやすく説明する。 | 協働 | ○ | ○ | ○ | う。発表後は，質問をしたり，感想を述べたりする時間を設けることで即興性を求めていく。 |
| 8 | 課題：なぜ人は○○に魅了されるのか。 ■既習表現を活用し，紹介の準備を行う。 ①聞き手を意識しながら練習をする。 | 協働 | | ● | ● | |
| 9 | 課題：なぜ人は○○に魅了されるのか。 ■【話し手】自分たちが選んだ国の世界遺産や食べ物，生活についてその魅力が伝わるように紹介する。 ■【聞き手】より詳しい情報を得るための質問や，自分の感想を述べる。 ①【話し手】聞き手に配慮しながら，自分たちが選んだ国の世界遺産や食べ物，生活等について紹介する。 ②【聞き手】質問や感想を述べる。 | 振り返りと評価 | ○ | ○ | ○ | |

5 本時について

(1) 本時の目標

教科書の対話文をもとにして，自分たちで選んだ国の世界遺産や食べ物等について，既習事項を活用しながら紹介することができる。【思考力，判断力，表現力等】

(2) 評価規準

自分たちで選んだ国の世界遺産や食べ物等について，既習事項を活用しながら紹介している。

【思考・判断・表現】

(3) 本時の展開

| 段階 | 学習内容および学習活動 | 時間 | 指導上の留意点 ◇実生活とのつながりに関する留意点 ●評価 |
|----|---|--------------------------------|---|
| 導入 | 0. 英語の歌「Seasons of Love」 1. 帯学習 ・曜日／天気／気分／日付／時間 ・都市 vs 田舎 ・東日本 vs 西日本 ・現在進行形 ・やり取り p87 2. ゴールの確認 | 9 1 | 視覚情報を伴った口頭練習 (Dialog) を行う。次の単元につなぐ。 |
| | なぜ人は○○に魅了されるのか。 | | |
| 展開 | 3. 音読 ・スラッシュリーディング (2→1) ・CD に続く ・役割読み ・ペア | 5 | 変化のある繰り返して練習をさせる。 |
| | 4. 内容確認 ・ペア，グループで本文の内容確認 ・文法説明 ・QA 確認 | 13 | |
| | 5. ペアで対話文を作成する ・ペアで口頭練習をする ・教師の前で披露する ・タブレットでメモ or 音声提出する | 20 | ◇自分たちが本当に言いたいことを伝えさせる。 ●個別評価 ◇対話文を共有する。 早く終わった生徒には対話文をノートに書くように指示する。 |

| | | |
|----------------|--|--|
| <p>終 結</p> | <p>6. 振り返り ・ノートに振り返りを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>*～さんが楽しそうに発表していて、紹介していた国に私も行きたくなった。私も真似しようと思う。 *教科書の対話文を使うことで、他の国についても紹介できることが分かった。今度は別の国についても調べてみたい。 *強調したいところを大きな声でゆっくり話すことができた。</p> </div> | <p>2 友人からの学び、対話文作成で工夫したこと、今後に向けて等、自己評価させる。</p> |
|----------------|--|--|

(4) 板書計画

| | |
|--|---|
| <p>Tuesday, November 8th, sunny</p> | |
| <p>Task:なぜ人は〇〇に魅了されるのか。</p> | |
| <p>P82</p> | |
| <p>You like World Heritage Sites, right?</p> | <p>Wow! It's so beautiful.</p> |
| <p>Yes. </p> | <p>We also have the Great Barrier Reef.</p> |
| <p>In Australia, <u>there are many sites.</u></p> | <p>I want to see it.</p> |
| <p> ~がある たくさんの</p> | <p> <u>There are many unique animals</u> too.</p> |
| <p>Really? <u>For example?</u></p> | <p>~がある (= a lot of)</p> |
| <p> 例えば</p> | <p>I know! Koalas and kangaroos are so cute.</p> |
| <p><u>There is a famous place</u> in Sydney.</p> | <p>QA</p> |
| <p>~がある 有名な</p> | <p>1 It's the Opera House.</p> |
| <p>Here it is. It's the Opera House.</p> | <p>2 They are Koalas and kangaroos.</p> |